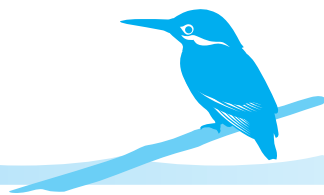


紙面から

保育所・学童クラブの
 入所・入会申込書を配布2
 まちづくり条例素案ができました2
 ~フォーラムを開催
 平成16年度市職員の給与を公表4・5
 日野市表彰式8
 長年貢献された功労者を表彰



ごみゼロ社会を目指して

ごみ改革から4年 市民の皆さんと協働で取り組んでいます

マイバッグ運動を推進します
 市民・事業所・市が協力し、買い物の際はマイバッグ(買い物袋)を持参し、レジ袋を断るよう呼びかける運動が、昨年7月からスタートしました。
 毎月5日には、市民ボランティアがスーパー店頭で呼びかけを行っています。現在、マイバ



マイバッグ持参率が40%を上回る高水準を保っています。



【ごみ相談窓口】
 ☆月曜・水曜・金曜日 9:30~12:00、13:00~16:00(祝日を除く)
 ☆市役所1階 お気軽にお立ち寄りください

ごみ相談窓口を設置しました
 昨年開催した「ごみ減量市民懇談会」で、どうしたらごみを減らせるか、市民の方からたくさんアイデアをいただきました

た。その中で、「転入者にごみの排出指導をして欲しい」という要望を実現させ、ごみ相談窓口を設置しました。市民の皆さんの日ごろの疑問にお答えしています。毎月150件以上の相談があり、大変好評を得ています。

市民の皆さんのご協力のおかげで、可燃ごみは、ごみ改革後も引き続き減少し、多摩地区でベスト1のごみ量でした。しかし、不燃ごみは18位にとどまっています。ごみ減量をさらに進めるために、市ではいろいろな取り組みを行っています。今後も「ごみゼロ社会」へ向けて、皆さんのご協力をお願いします。
 (ごみゼロ推進課 ☎581・0444)

これだけかかる **ごみ処理経費**

(平成15年度決算から)

内 訳	金額(円)
① ごみ減量・リサイクルを進める費用	2億1,100万
② 資源物等の回収・中間処理費用	5億9,800万
③ 剪定枝収集チップ化・家電リサイクル収集運搬補助金・生ごみリサイクル等の新しい事業費用	2,500万
④ クリーンセンターを運営する費用	6億1,600万
⑤ ごみ等の収集運搬費用	6億7,300万
⑥ し尿処理にかかる費用	1億3,400万
⑦ クリーンセンター施設費用	4億 800万
⑧ ごみの最終処分場にかかる費用	2億9,100万
合 計	29億5,600万

※ごみ処理手数料(指定収集袋)の歳入は、4億3,900万円。処理費の約15%。主に、内訳①~③の一部に使われています

環境学習への取り組み



▲ごみゼロ推進課職員による出前授業。子ども達の顔も真剣です

小学生を中心に行っているクリーンセンターの見学や出前授業では、今年度はすでに延べ2千人を超える参加がありました。大学の新生入生には、ごみの出し方を「ごみゼロ推進課」の職員が説明しました。また、大学生と一緒に「ごみ」に関する勉強会しながら、「ごみ情報誌「エコー」」を作成するなど、新たな取り組みも始めました。「環境にやさしい日野市民」を育てます。



▲入学オリエンテーションでごみの出し方を説明

不燃ごみの中で8割近く(容積率)を占めるプラスチック製の容器・包装類が、なかなか減らないのが現状です。現在、一部地域を対象として分別収集のモデル実験を実施しています。この実験の結果をもとに、プラスチック容器の分別収集を進めるべきかどうかを検討していきます。

多摩地区30市町村中、日野市は?

1日1人当たりのごみ量

- 可燃ごみ 487.9g → **ベスト1**
- 不燃ごみ 99.2g → **18位**
- 総ごみ量 848.0g → **8位**
- リサイクル率 30.0% → **10位**

さらに進めよう!ごみ減量

東京市町村自治調査会調べ(平成15年度)

事業系ごみの減量へ向けて
 市内から出るごみ量のおよそ4分の1が事業所から出されるごみです。事業所に対する排出の指導や、搬入された事業系ごみの検査を徹底して行った結果、現在のところ事業系ごみは、昨年よりも約6%の減量となっています。
 今年度はアンケート調査を行って、どのような施策が事業系ごみの減量に有効なのかを考えたいきます。

プラスチック容器モデル収集を開始
 不燃ごみの中で8割近く(容積率)を占めるプラスチック製の容器・包装類が、なかなか減らないのが現状です。現在、一部地域を対象として分別収集のモデル実験を実施しています。この実験の結果をもとに、プラスチック容器の分別収集を進めるべきかどうかを検討していきます。